

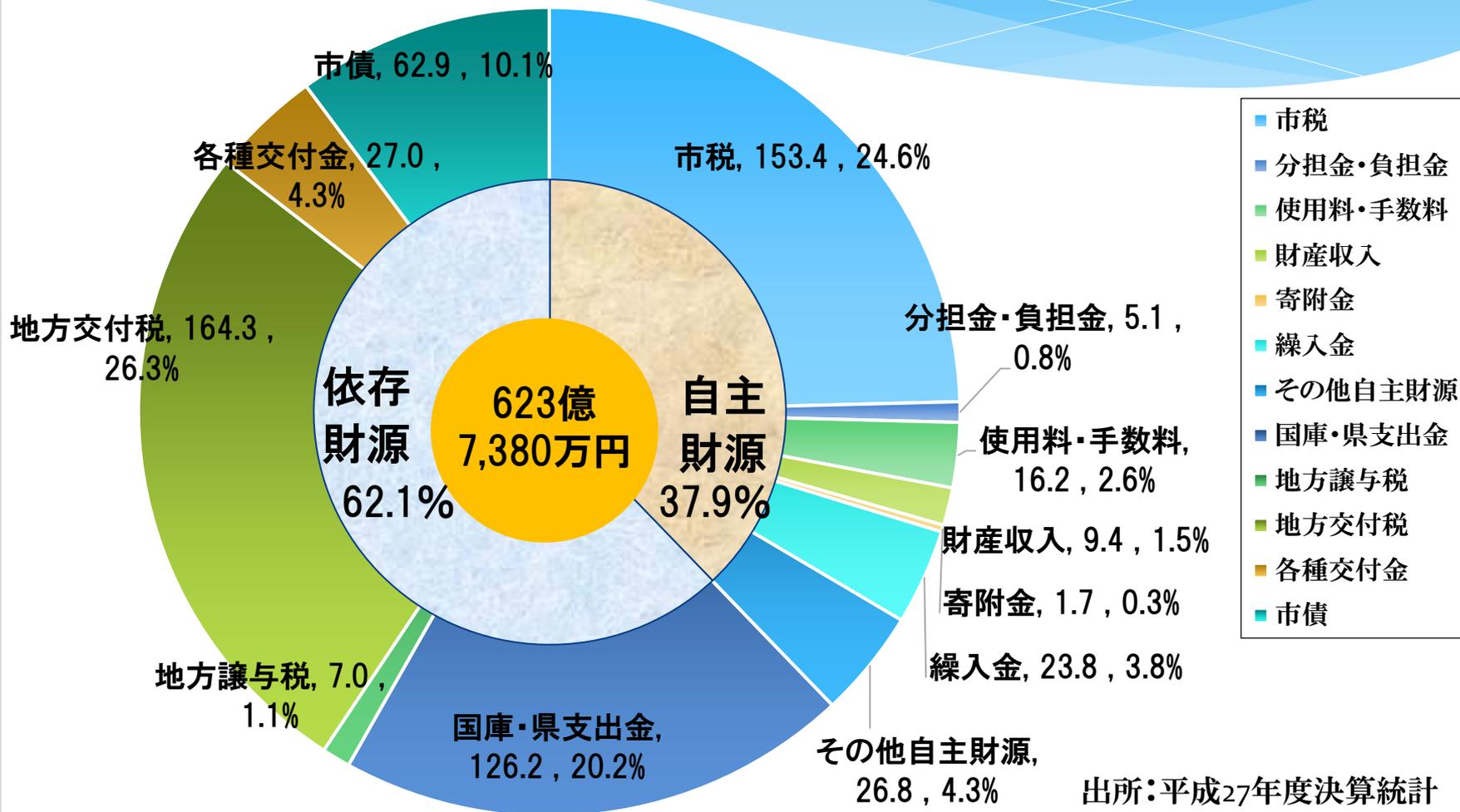
霧島市の現状について

平成29年1月17日

霧島市企画部企画政策課

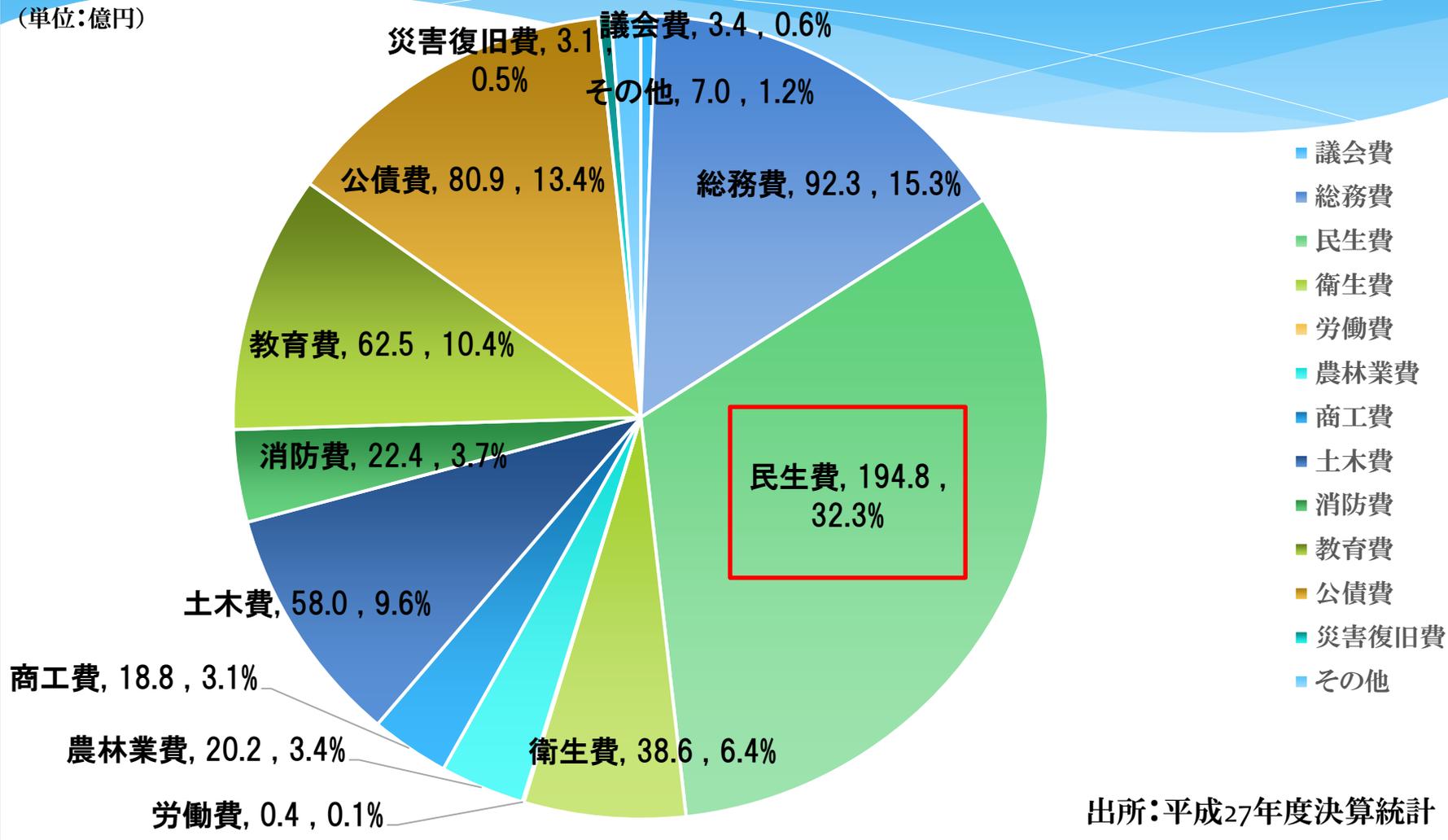
自主財源（自主的に収入する財源）は依存財源（国・県から交付される収入など）よりも**少ない**状況。

（単位：億円）



歳出を目的別に分類すると、**民生費**（高齢者や障がい者、児童の福祉推進など）が多くの割合を占めている状況。

(単位:億円)

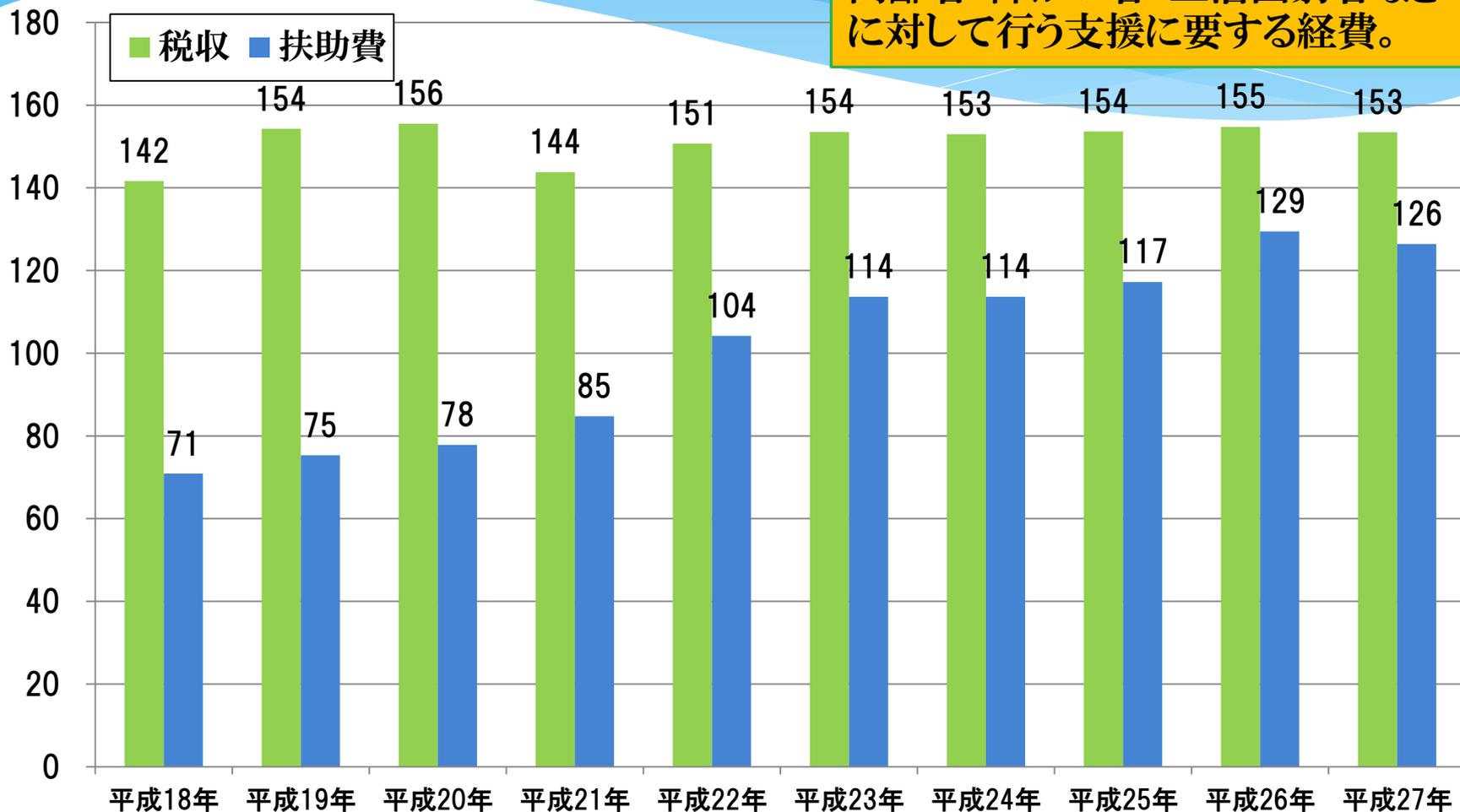


税収は横ばいとなっている中、扶助費は増加し続けている状況。

扶助費とは・・・

社会保障制度の一環として、児童・高齢者・障がい者・生活困窮者などに対して行う支援に要する経費。

(単位：億円)



出所：決算カード

市民1人当たりの決算額と主な事業①

平成27年度に市民1人当りに使ったお金は**468,978円**で、主に次のような事業に使われました。

| | 民生費 | 総務費 | 公債費 |
|------------|--|---|---|
| 歳出決算額 | 153,404円 | 72,704円 | 63,740円 |
| 歳出決算に占める割合 | 32.7% | 15.5% | 13.6% |
| 対前年度との増減額 | 4,044円 | ▲665円 | ▲4,728円 |
| 主な事業 | <p>高齢者、障がい者、児童の福祉推進などに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆児童クラブ運営補助 ◆生活保護費の支給 ◆児童手当の支給 ◆公立・私立の保育所運営・支援 ◆養護老人ホームの運営 ◆高齢者への生活支援事業 ◆障がい者への生活支援事業 ◆臨時福祉給付金事業など  | <p>総務管理、財産管理、企画調整、地域振興、税務事務などに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆土地、建物などの財産管理 ◆税の賦課・徴収 ◆ふれあいバスなどの運行 ◆自治会、地域の活性化事業 ◆電算システムの稼働 ◆行政改革への取り組み ◆交通防犯対策の取り組み ◆関平鉱泉販売所の管理運営  | <p>これまでの施設整備などで借入れたお金の返済に。</p>  |

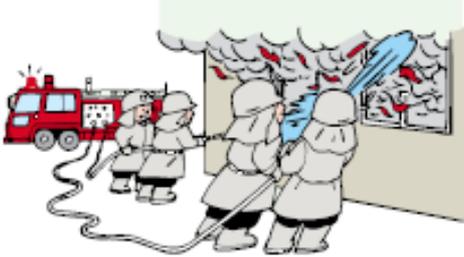
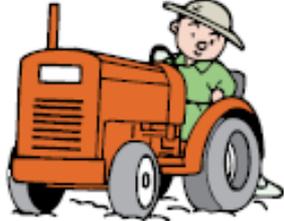
市民1人当たりの決算額と主な事業②

平成27年度に市民1人当たりに使ったお金は**468,978円**で、主に次のような事業に使われました。

| | 教育費 | 土木費 | 衛生費 |
|------------|---|--|---|
| 歳出決算額 | 49,237円 | 45,646円 | 30,414円 |
| 歳出決算に占める割合 | 10.5% | 9.7% | 6.5% |
| 対前年度との増減額 | 8,909円 | ▲1,362円 | ▲3,527円 |
| 主な事業 | <p>学校の管理運営や施設整備および生涯学習の推進などに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小中学校ほか施設整備 ◆運動公園などの施設維持管理 ◆埋蔵文化財発掘調査 ◆図書館・図書室の運営管理 ◆公民館講座などの開催 ◆国分中央高校の運営  | <p>道路、公園、公営住宅の整備などに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆市道の維持管理および新設改良 ◆河川および港湾の管理費 ◆公営住宅の維持管理 ◆土地区画整理事業 ◆公園整備および管理事業  | <p>ごみ、し尿の処理や健康増進事業などに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆合併処理浄化槽の設置補助 ◆ごみの収集、運搬 ◆ごみ処理場、し尿処理場、火葬場の建設および管理運営 ◆インフルエンザなどの予防接種 ◆母子保健事業 ◆基本健診および各種がん検診 ◆子ども医療費の助成  |

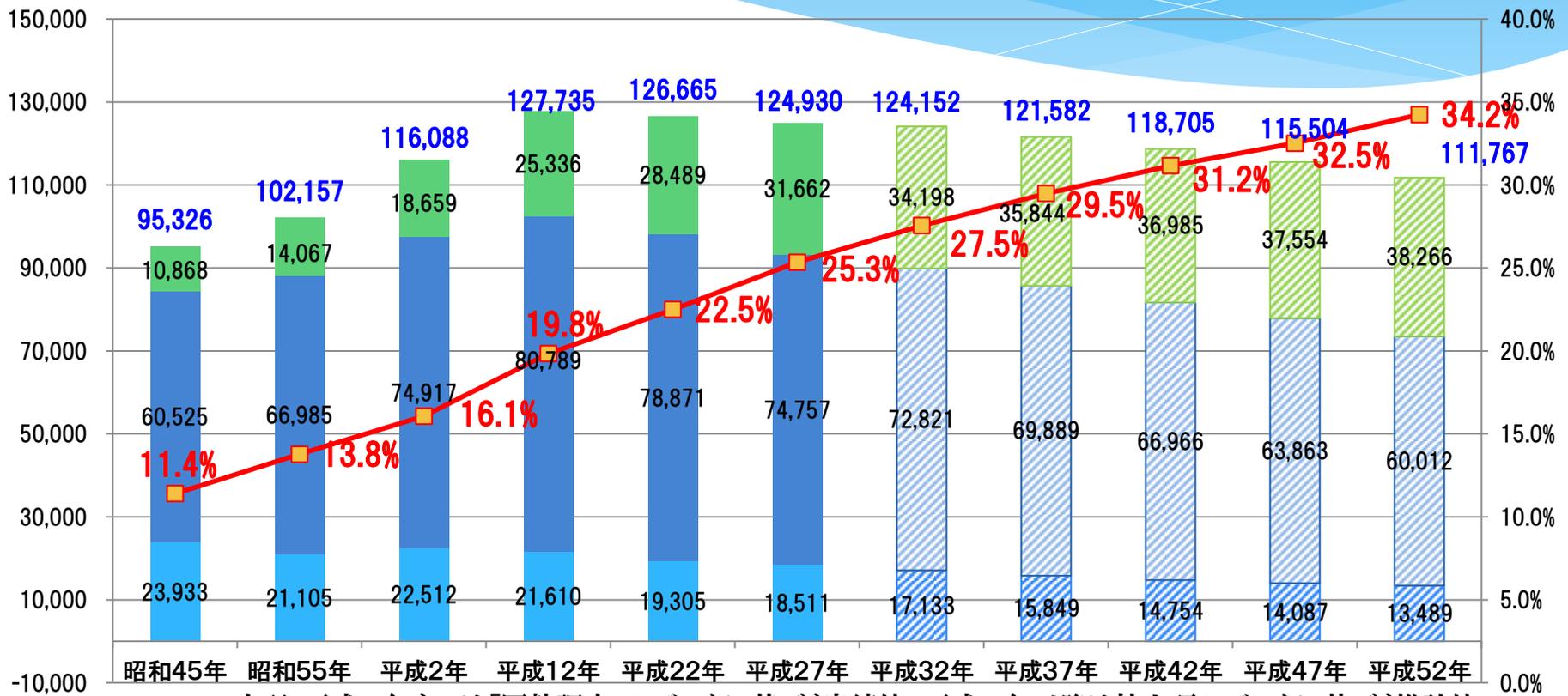
市民1人当たりの決算額と主な事業③

平成27年度に市民1人当りに使ったお金は**468,978円**で、主に次のような事業に使われました。

| | 消防費 | 農林水産業費 | その他の経費 |
|------------|--|--|--|
| 歳出決算額 | 17,633円 | 15,916円 | 20,284円 |
| 歳出決算に占める割合 | 3.8% | 3.4% | 4.3% |
| 対前年度との増減額 | 973円 | ▲16,994円 | 10,546円 |
| 主な事業 | <p>消防活動や救急業務などに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆常備消防（消防署）の運営 ◆非常備消防（消防団）の運営 ◆消防車両整備 ◆水防防災・災害対策事業 ◆防災行政無線整備事業 ◆総合防災マップ発行事業  | <p>農業、林業、畜産業、水産業の振興などに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆園芸ブランド作物の推進および各種生産組合などの育成・強化 ◆農業施設などの整備 ◆森林整備事業（除間伐事業など） ◆林道・農道などの整備事業 ◆生産基盤整備などの県営事業負担金  | <p>商業、観光、企業誘致、議会運営、災害現場の復旧作業などに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆消費生活相談事業 ◆中小企業対策事業 ◆企業誘致推進 ◆観光振興 ◆商工業振興 ◆議会の開催、議員の報酬 ◆市道、農道などの災害復旧事業  |

人口減少に歯止めがかからない中、更に生産年齢人口の減少が進行すると共に、高齢化率が上昇することが予想されます。

(単位：人)

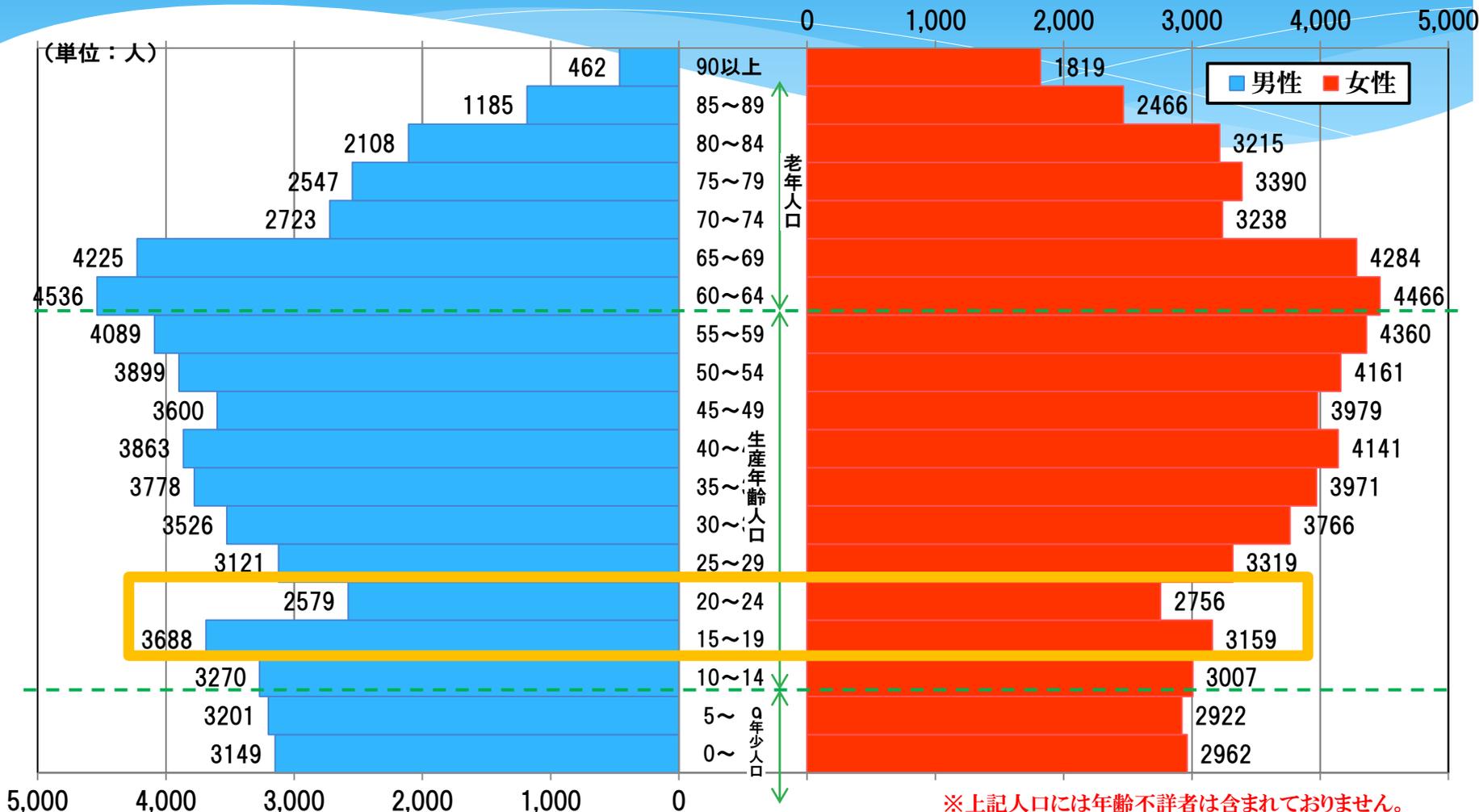


出所：平成27年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、平成32年以降は社人研のデータに基づく推計値

※上記人口には年齢不詳者は含まれておりません。

■ 老年人口 (65歳以上)
 ■ 生産年齢人口 (15~64歳)
 ■ 年少人口 (0~14歳)
 —■— 高齢化率

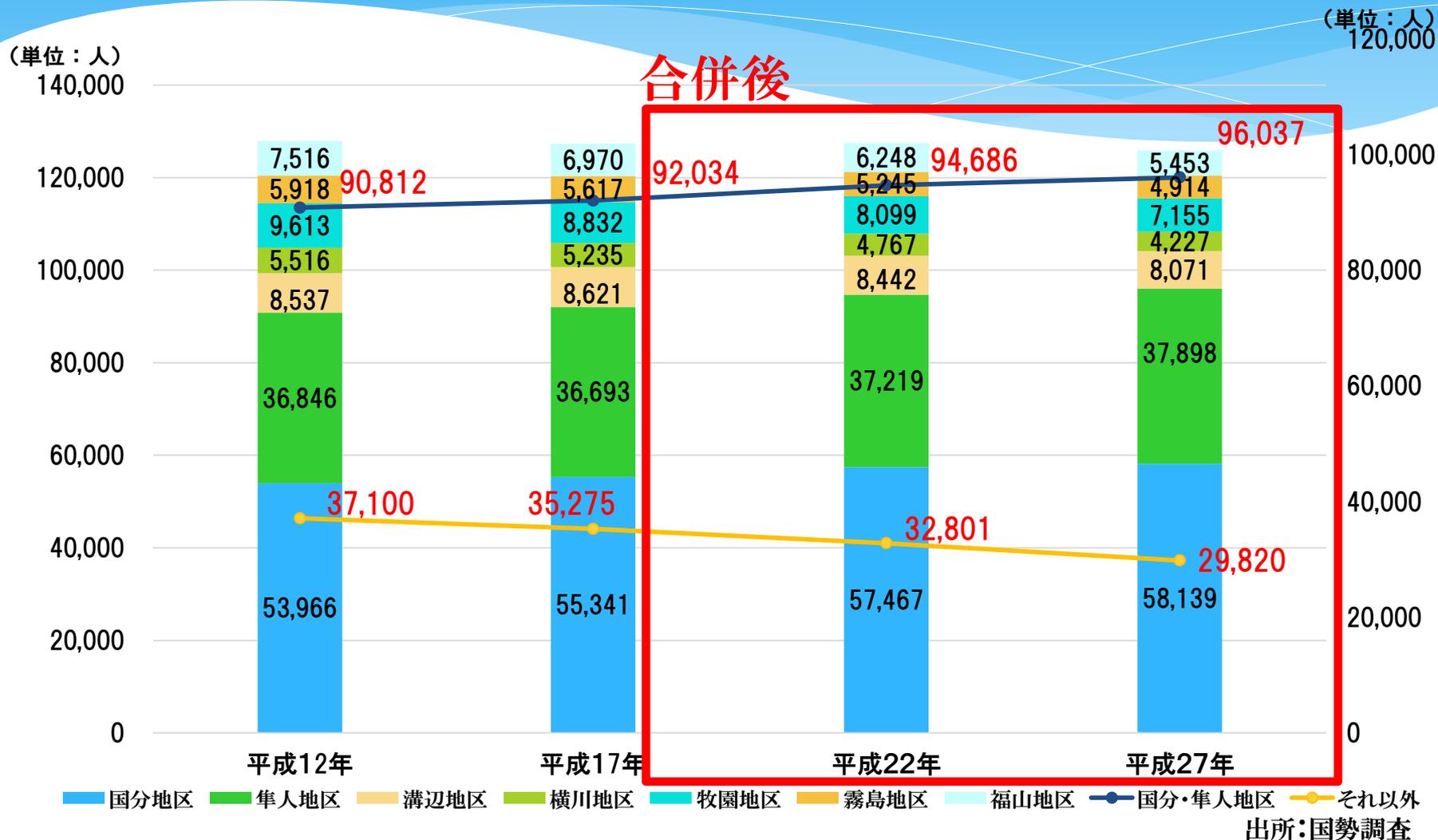
「15歳～19歳」から「20歳～24歳」にかけて、人口が大幅に**減少**しています。



他市町村から霧島市への転入者数、霧島市から他市町村への転出者数ともに**鹿児島市**が最も多く、次いで**始良市**となっています。

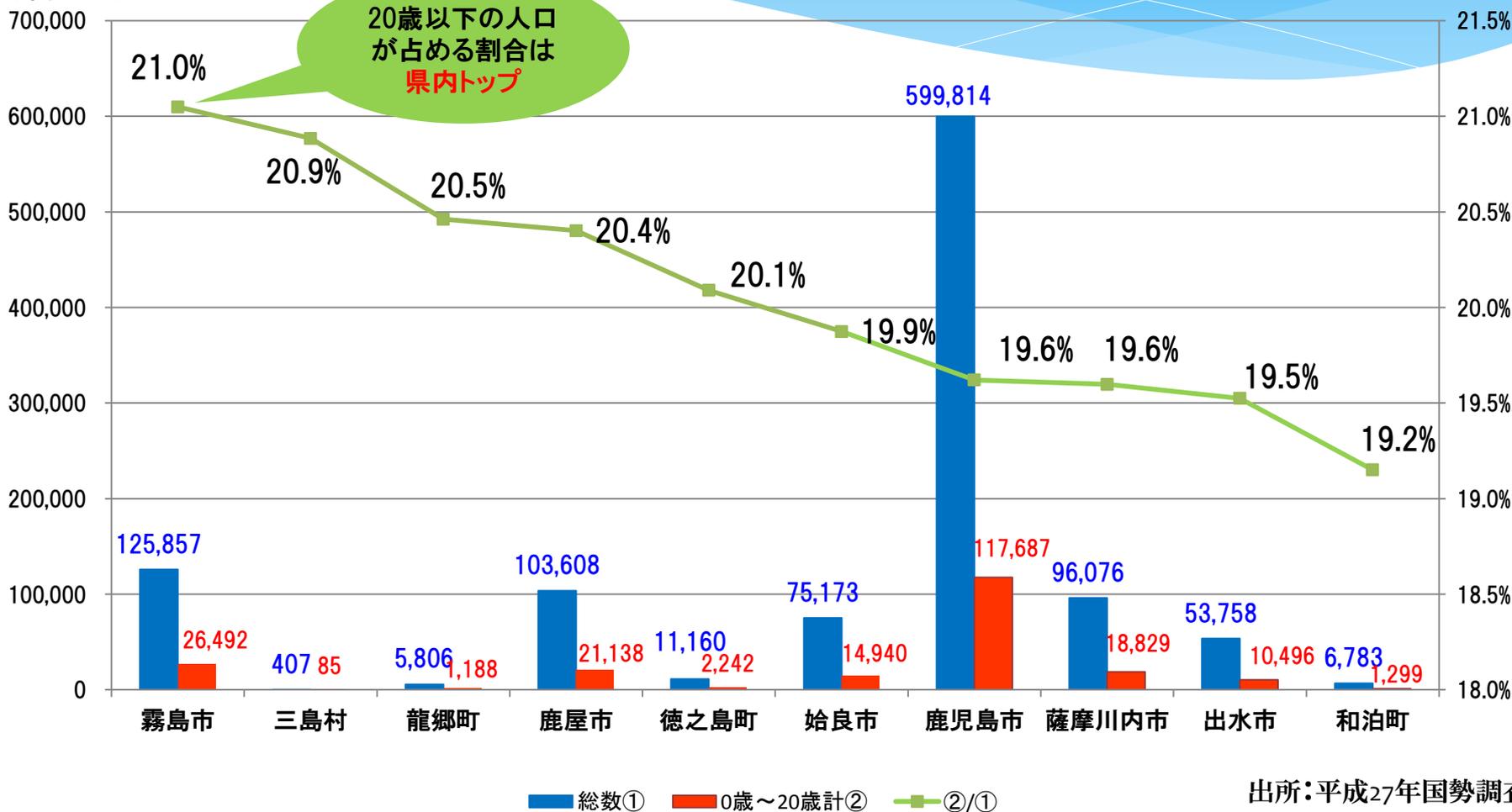
| 順位 | 地域 | ①転入者数 | ②転出者数 | 転入・転出の差 (①-②) |
|----|------|--------|--------|------------------|
| 1 | 鹿児島市 | 1,073人 | 1,223人 | ▲ 150人 |
| 2 | 始良市 | 431人 | 601人 | ▲ 170人 |
| 3 | 都城市 | 269人 | 272人 | ▲ 3人 |
| 4 | 鹿屋市 | 259人 | 198人 | 61人 |
| 5 | 熊本市 | 177人 | 197人 | ▲ 20人 |

国分・隼人地区の人口は増加傾向にあり その他の地区は減少傾向にあります。



平成27年国勢調査において、20歳以下の人口割合は、**県内トップ**となっています。

(単位：人)



出所：平成27年国勢調査